

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	学校臨床心理学特論	前期	月6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-牛田 洋一	1年	yushida@okiu.ac.jpあるいは講義後に教室にて	

学びの準備	ねらい 現在の学校における臨床心理学的支援は、スクールカウンセラーがその中心にいます。スクールカウンセラーは臨床心理士の活躍の場として大きな位置を占めています。本講座では学校臨床で問題なるテーマを取り上げ、すぐに役立つ実践家の知識を習得していくことを目指します。	メッセージ 自由に活発な議論の場を提供していきたいと思います。
	到達目標 講義の中では限定されたテーマで議論を重ねていきますが、テーマに対する理解だけではなく、各自がテーマに関する発表の準備と議論を重ねていく過程のなかで、今後の学校心理臨床実践の場で、すぐに役立つ人材になることを目指します。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 学校臨床心理学とは	各自の課題を明確にしてくる
	2	学校臨床心理学の今日的課題：不登校	文献検索と発表準備
	3	学校臨床心理学の今日的課題：不登校	同上
	4	学校臨床心理学の今日的課題：いじめ	同上
	5	学校臨床心理学の今日的課題：いじめ	同上
	6	学校臨床心理学の今日的課題：緊急支援	同上
	7	学校臨床心理学の今日的課題：緊急支援	同上
	8	学校臨床心理学の今日的課題：ストレスマネジメント	同上
9	学校臨床心理学の今日的課題：アンガーマネジメント	同上	
10	学校臨床心理学の今日的課題：発達障害	同上	
11	学校臨床心理学の今日的課題：発達障害	同上	
12	学校臨床心理学の今日的課題：その他	同上	
13	事例検討（1）	議論のための準備	
14	事例検討（2）	同上	
15	学校臨床心理学総括	同上	
16	試験（口頭試問）	発表・議論を合わせて評価	
実践	テキスト・参考文献・資料など それぞれのテーマに沿って適宜紹介します。入手困難の文献については印刷配布します。また、各自が発表テーマに沿った文献を検索し、講義の中で紹介してください。		
	学びの手立て 各自がテーマに沿った知見を検索、検討しレジュメを作成し発表して頂きます。各自の発表に対して、受講者同士の積極的な議論を望みます。大学院では自ら積極的にテーマを追求していく姿勢が求められます。		
	評価 各自の発表・議論への参加（70%） 最終の口頭試問（30%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 学校臨床で役に立つ臨床心理の専門家となるためには、本講座でのテーマのみならず、臨床心理学、心理学全般の知識を広く身に付けていくことがいくことが必要となります。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	高齢者福祉特論	後期	月7	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	保良 昌徳	1年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント
	授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価

学びの継続	次のステージ・関連科目

学びの継続	
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会心理学特論	前期	水6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-加藤 潤三	1年	jkato@ll.u-ryukyu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本授業では、社会心理学的研究に必要な一連の知識、具体的には、社会心理学における理論から、研究方法（調査法、実験法など）や心理統計について、総合的に学ぶことを目的とする。なお個別的にどのようなテーマを扱うかについては、受講生それぞれの研究テーマに応じて、設定することとする。</p>	<p>社会心理学一般の学修のみならず、自身の研究テーマについて考えていってください。</p>
到達目標	<p>”①社会心理学的な研究法、理論について理解し、研究に応用できる。 ②心理統計に関する知識を身につけ、研究に応用できる。 ③自身の研究に関する知識や考察を深め、研究テーマを発展的に展開することができる。”</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
2	社会心理学における諸理論		
3	社会心理学的な研究法		
4	心理統計		
5	学生による発表	レポート・レジュメの作成	
6	学生による発表	レポート・レジュメの作成	
7	学生による発表	レポート・レジュメの作成	
8	学生による発表	レポート・レジュメの作成	
9	学生による発表	レポート・レジュメの作成	
10	学生による発表	レポート・レジュメの作成	
11	学生による発表	レポート・レジュメの作成	
12	学生による発表	レポート・レジュメの作成	
13	学生による発表	レポート・レジュメの作成	
14	学生による発表	レポート・レジュメの作成	
15	まとめ		
16			
	テキスト・参考文献・資料など 適宜指示する		
	学びの手立て 自律的な研究姿勢が必要です。		
	評価 ”発表およびレジュメ：70% 到達目標1・2・3の評価 ディスカッションへの参加：30% 到達目標1・2・3の評価”		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会福祉原理特論	通年	月6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	保良 昌徳	1年	講義の中で受け付ける オフィスアワーの活用を歓迎する	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、現在の社会福祉政策や社会福祉実践に関わる基本的な部分に目を向け、福祉学の現状と今後の展望等について考察する。特に、社会福祉全体を支える基本的視点や実践の原理的な側面について、批判的に捉え直すとともに、福祉学に関わる諸理論への理解を深め、新たな地平の模索を試みる。</p>	<p>各課題について、日頃から関心を持ち、自主的に文献や資料の収集に努め、自分なりの視点の確立に心がけることが望ましい。</p>

到達目標	<p>① 講義修了後には、それぞれの課題について、事実やデータ、理論等に基づいたプレゼンテーションができるようになること</p> <p>② 特に、社会福祉の理論史、政策のながれと関連させながら説明ができるようになること</p>
------	---

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>一年を大きく5つに分け、以下のテーマに取り組む</p> <ol style="list-style-type: none"> 福祉学の学問的な位置づけと今後の展望 <ul style="list-style-type: none"> 学問とは何か、その成立要件とは何か等について考察する。 人間や社会に関わる諸学問ながれ、現状や課題等について理解する。 福祉学の学問的構造・位置づけ等について、自らのまとめを試みる。 社会福祉学の代表的理論の位置づけと課題について <ul style="list-style-type: none"> 日本における社会福祉学理論のながれと現状を理解する。 欧米における人間・社会に関する主な理論等と福祉学との関連を理解する。 諸理論と福祉学との関連においてまとめを試みる。 福祉国家の国際動向と日本のあり方 <ul style="list-style-type: none"> 福祉国家論の概要（ながれ・現状・課題等）を理解する。 いくつかの福祉国家の政策原理の課題等について考察する。 福祉国家の展望や課題等についてまとめを試みる。 社会福祉実践理論を今後の課題 <ul style="list-style-type: none"> 社会福祉施策の対人実践の基本原則・理念等について理解する。（日本） 地域・社会に対する福祉施策理念等について理解する。 ソーシャルワークの本質・原理等について理解する。 社会福祉援助・ソーシャルワーク等の関連性等についてまとめを試みる。 21世紀の日本の社会福祉の動向と展望 <ul style="list-style-type: none"> 日本の戦前から戦後、また戦後の社会福祉政策の基本的視点等について理解する。 特に90年代等から現在に至る改革の変遷及びその基本的視点について理解する。 今後の日本の福祉国家として将来像・あり方等についてまとめを試みる。
-------	--

テキスト・参考文献・資料など	<p>*必要に応じて提示する。</p> <p>*必要に応じて提示する。</p>
----------------	---

学びの手立て	<p>講義中に提示された文献や資料を精読すること</p> <p>講義中の討論に積極的に参加すること</p>
--------	---

評価	<p>*出席状況、レポートの提出状況とその内容、討論への参加とその内容および最終報告書の内容等をもとに総合的に評価する。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>講義の中で提示する</p>
-------	-------------------------------------

※ポリシーとの関連性

この科目では「個人や社会の福祉問題に関する適切な研究活動」の
土台となる見識や技法の一端を提供するものである。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会倫理学特論	前期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小柳 正弘	1年	mkoyanagi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 社会倫理学とは、人間のありようについて社会との関わりで哲学的な考察をおこなうものである。この授業では、「ひととひとがともにあることで実現される幸福」もしくは「ひととひとがともにあることで幸福を実現すること」としての「社会福祉」の原理と倫理について、テキストの批判的読解と受講者の議論により、多面的かつ根底的な検討を試みる。	メッセージ ともに考えることへの主体的な取り組みを求める。
	到達目標 「ライフストーリー」概念についての多面的な理解をふまえて、ライフストーリーが人間にとってもつ意味について、自身なりの考えをコンパクトに述べられるようになる。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p><input type="checkbox"/> 授業は以下のような段取りでおこなう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文献について受講者が交替で分担してレジュメ（A4、1～2枚、40字×30行）をつくり、概要を報告する。 ・報告担当者以外の受講者は批判的コメント（A4、1枚、40字×10行程度）を準備する。 ・概要とコメントふまえて全員で議論する。 <p><input type="checkbox"/> 内容としては、援助やケアに関する各種の原理を批判的に考察するとともに、現場と理念を架橋する方法論を探索する。</p> <p>今年度は、ライフストーリー・インタビューの批判的検討を行う。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山田富秋・好井裕明編『語りが拓く地平 ― ライフストーリーの新展開』せりか書房
	<p>学びの手立て</p>
	<p>評価</p> <p>報告、レジュメ、コメント、議論への貢献などを総合的に評価する。</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性 障害学の研究成果について学び議論を深め、障害や障害の経験に関する研究活動を広げる機会とします。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	障害者福祉特論	後期	火6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子	1年	毎回の講義終了後に受け付けます。	

学びの準備	ねらい 国内外の障害者施策の歴史的発展プロセスを踏まえた上で、障害学の研究成果を学び、議論を深める。受講生の関心に合わせた文献も取り扱う。	メッセージ 障害・障害者の理解に向けて学術的取組みをする。
	到達目標 障害学に関する主要論文を多数読むことができる。障害学の視点から社会を問い直すことができるようになる。	

学びの準備	到達目標 障害学に関する主要論文を多数読むことができる。障害学の視点から社会を問い直すことができるようになる。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 講義のオリエンテーション時に示す
	テキスト・参考文献・資料など 随時、論文、資料、文献を紹介していく ①コリン・バーンズ他著杉野昭博他訳『ディスアビリティ・スタディーズ～イギリス障害学概論』、明石書店。 ②杉野昭博(2007)『障害学～理論形成の射程～』、東京大学出版会。 その他

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 随時、論文、資料、文献を紹介していく ①コリン・バーンズ他著杉野昭博他訳『ディスアビリティ・スタディーズ～イギリス障害学概論』、明石書店。 ②杉野昭博(2007)『障害学～理論形成の射程～』、東京大学出版会。 その他
-------	--

学びの実践	学びの手立て 障害学に関する文献および論文を多数紹介するので、それをしっかり読みましょう。障害学や障害者福祉に関する研究会に積極的に参加しましょう。
-------	---

学びの実践	評価 ①事前学習課題の取り組み、②講義時の積極的参加の状況、③レポート内容を総合的に評価する。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のステージ：学内外の情報保障の実践の場に積極的に関わり、演習で学んだことを活かしましょう。 関連科目：障害者に対する支援と障害者自立視線制度、障害学、相談援助の理論と方法、教職課程の諸科目。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	障害児（者）援助特論	後期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	知名 孝	1年		

学びの準備	ねらい この講義では、将来臨床心理士を希望する大学院生を対象に、「地域支援」や「ケースワーク・ソーシャルワーク実践」について、実践的な理解をすすめていくことを目的とする。精神科医療、児童福祉、障害福祉、発達障害児者支援、ひきこもり支援など、さまざまな分野において臨床心理士によるケースワーク・ソーシャルワーク具体的な実践の方法と知識について掘り下げていきたい。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	心理臨床とソーシャルケースワーク（1）	
	2	心理臨床とソーシャルケースワーク（2）	
	3	心理臨床とソーシャルケースワーク（3）	
	4	資源を学ぶ（障害福祉サービス）1	
	5	資源を学ぶ（障害福祉サービス）2	
	6	資源を学ぶ（学校教育福祉）	
	7	資源を学ぶ（精神保健福祉法に関わる資源）	
	8	資源を学ぶ（ひきこもり支援・児童福祉）	
	9	心理臨床としての地域支援・ケースワーク実践（発達障害）	
	10	心理臨床としての地域支援・ケースワーク実践（発達障害）	
	11	心理臨床としての地域支援・ケースワーク実践（精神保健福祉）	
	12	心理臨床としての地域支援・ケースワーク実践（ひきこもり介入）	
	13	心理臨床としての地域支援・ケースワーク実践（児童福祉）	
14	心理臨床としての地域支援・ケースワーク実践（触法少年）		
15	法人をつくる、資源をつくる		
16			
テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストは設定していない。それぞれのテーマに添ったテキストを授業のなかで周知していく。 『ADHDの明日に向かって』（田中康雄著・星和書店） 『統合失調症を持つ人への援助論』（向谷地生良著・金剛出版）			
学びの手立て			
評価 1) 出席 2) 講義中のディスカッションへの参加（講義では学生とのやりとりを前提とする） 3) 講義中の課題の提出 4) 期末テストないしレポートの提出（どちらにするかは講義のなかで連絡する）			

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学研究法特論	後期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	泊 真児	1年	研究室：5号館534 stomari@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	臨床心理学を専攻する大学院生が、修士論文作成の中で用いることが多い心理学の研究法に焦点を当てる。文献の検索・収集・批判的検討から、研究デザインの策定、データの収集と解析、結果の考察と論文執筆、そして発表に至るまで、一連の科学的実証研究のプロセスを体得することを目指す。講義の中で、修士論文のデザインをブラッシュアップしていくことも目的の1つである。	講義形態は、いわゆる「授業」ではなく、「アクティブ・ラーニング」を重視したやり方とする。よって、卒業研究や修士論文研究デザインの発表、講義における意見表明や質問、対話や討論など、能動的な関与を求める。
到達目標	①「科学」および「心の科学」とは何かについて、自分なりの見識を持つことができる。 ②心理学研究の主要な方法論について理解し、その要点を人に説明することができる。 ③研究論文をクリティカルに読む方法の基礎が身につけられる。 ④講義内でのプレゼンと討議を通して、修士論文の研究デザインを洗練させることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・授業契約	次回講義内容の予習
	2	科学的(的)とは何か?について考える～定義・要件・心の科学論～	予習と復習・次回のレジュメ作成
	3	心理学の方法論(1)：実験法	同上
	4	心理学の方法論(2)：質問紙調査法	同上
	5	心理学の方法論(3)：面接法	同上
	6	心理学の方法論(4)：質的研究法	同上
	7	研究論文を批判的に読む(1)～クリティカル・リーディング入門～	同上
	8	研究論文を批判的に読む(2)～クリティカル・リーディング演習～	同上
	9	研究成果発表会(1)：卒業研究のプレゼンテーション	レジュメ作成・コメント内容の検討
	10	研究成果発表会(2)：卒業研究のプレゼンテーション	同上
	11	修士論文プレデザイン発表・検討会	同上
	12	修論作成に関わる主要論文の批判的検討(1)	同上
	13	修論作成に関わる主要論文の批判的検討(2)	同上
	14	修論作成に関わる主要論文の批判的検討(3)	同上
15	修士論文プレデザイン発表会	同上	
16	予備日		

テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは特に指定しない。毎回の配布資料を中心に講義する。以下に参考書籍を示す。 宮本聡介・宇井美代子 編 2014 質問紙調査と心理測定尺度 サイエンス社 村井潤一郎 2012 Progress & Application心理学研究法 サイエンス社 浦上昌則・脇田貴文 2008 心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方 東京図書</p>
----------------	---

学びの手立て	<p>実習や学外ボランティア等、やむを得ない事情で遅刻や欠席をする際は、なるべく事前に担当教員に連絡を入れること。難しい場合は、事後速やかに連絡すること。出欠状況は言うまでもなく、講義への主体的な関与度を評価します。 講師や他の受講生の話をうのみにせず、いったん自分の頭でクリティカルに考えてから咀嚼すること。 自分なりの視点と意見を持つように心がけること。</p>
--------	---

評価	<p>1. 講義への出欠状況と講義における意見表目、質疑応答、討論への積極的な参加が60% 2. プレゼンテーションや課題が40% 上記の1と2をもとに、総合的に評価する。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心理統計法特論を履修すると、データ解析法と研究法の関連性が理解しやすくなるだろう。 ・次のステージとして、臨床心理学特殊研究での修士論文作成に活かしてほしい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理統計法特論	前期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	泊 真児	1年	研究室：5号館534 stomari@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、実証研究を行う上での有力な手法である統計的データ解析法について、演習中心に学んでいく。目指すのは、受講生が可能な限り独力で、一通りの主要なデータ解析法が扱えるようになることである。受講生各自の研究デザインやデータとなるべく関連づけながら授業を展開し、実際にサンプルデータを用いてコンピュータと統計パッケージ(SPSS・Amos等)を用いたデータ解析を行う。</p>	<p>受講生のデータ解析法の知識やスキルを把握した上で、授業計画を若干調整したいと思います。“習うより慣れろ”で、まずやってみることが大切です。</p>
到達目標	<p>①心理学の研究でよく用いられる実験研究型のデータと調査研究型のデータを、一通り独力で分析できる。 ②収集されたデータの特徴に合わせて、適切な解析手法を適用できるようになる。 ③修士論文の研究で統計的なデータを収集した際に、本科目で身につけたデータ解析法を活用することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	1週目：履修登録・オリエンテーション：本講義の進め方の説明等、心理学の研究法とは？	次回テーマについての予習
	2	2週目：研究デザインとデータ解析の関係 & 変数の分類と尺度水準	次回テーマの予習と今回の復習
	3	3週目：度数の違いの検定～ χ^2 乗検定と残差分析～	同上
	4	4週目：平均値の差の検定(1)～1要因分散分析～	同上
	5	5週目：2要因分散分析における主効果と交互作用とは？	同上
	6	6週目：平均値の差の検定(2)～2要因分散分析：実験参加者間計画～	同上
	7	7週目：平均値の差の検定(3)～2要因分散分析：実験参加者内計画～	同上
	8	8週目：2変数間の関係性の分析～相関分析と回帰分析～	同上
	9	9週目：因果モデルに基づく説明と予測のための方法～重回帰分析とパス解析～	同上
	10	10週目：多くの変数を少数の指標にまとめる方法～主成分分析と因子分析～	同上
	11	11週目：変数間の背後にある要因を探る方法～因子分析演習～	同上
	12	12週目：潜在変数を用いたデータ解析法～共分散構造分析(1)～基礎編	同上
	13	13週目：潜在変数を用いたデータ解析法～共分散構造分析(2)～応用編	同上
	14	14週目：実験・調査データの解析：総合演習	同上
15	15週目：データ解析総合演習：学期末課題演習	全学習内容の復習と課題作成	
16	16週目：予備日		

テキスト・参考文献・資料など	<p>教科書は特に指定せず、毎回の配付資料を中心に講義を進める予定です。下記は参考書籍です。</p> <p>古谷野 亘 (1988). 数学が苦手な人のための多変量解析ガイド 川島書店 小塩真司 (2005). 研究事例で学ぶSPSSとAMOSによる心理・調査データ解析 東京図書 小塩真司 (2011). SPSSとAMOSによる心理・調査データ解析 [第2版] 東京図書</p>
----------------	---

学びの手立て	<p>毎回の講義内容を積み上げ式に習得していくことが大切です。遅刻や欠席をすると理解が困難になることがありますので、ご注意ください。学部レベルの統計学の知識は、自学自習で身につけておくことが望ましいです。</p>
--------	--

評価	<ul style="list-style-type: none"> 成績評価は、平常点45%、学期末課題55%の内訳で、これらを総合して評価する。ただし、いずれも6割以上の成績を残すことが単位認定の条件となる。 平常点は、遅刻や欠席の状況、演習課題への取り組み状況を中心に評価する。 学期末課題は、参考書等の持込みを「すべて可」として実施する予定。
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> 心理学研究法特論を履修すると、研究法とデータ解析法関連性が理解しやすくなるだろう。 次のステージとして、臨床心理学特殊研究での修士論文作成に活かしてほしい。
-------	--

※ポリシーとの関連性

人間福祉専攻学生が履修できる。臨床心理の実践力を身につけるための専門科目である。受講には臨床心理の基礎知識が必要。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理療法特論	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-古賀 聡	1年	世話役教員平山まで (atsushi@okiu.ac.jp)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>アルコール使用障害（依存症）をはじめとした嗜癖問題への心理臨床的支援の実践を理解する。防衛性や否認性の問題を抱え心理支援を受け入れることが難しい多様な対象者に対して、どのように介入を配慮していくのかを学ぶ。その実践方法としてアクション・メソッドを中心にその理論と方法論を体験的に学ぶ。</p>	<p>動作法、心理劇といったアクションメソッドの実習体験も予定しています。言語面接に加え、アクション・メソッドを習得することで、様々な対象への支援の幅が広がります。受講者の臨床心理学の知識や臨床心理学的技法の経験を考慮しながら講義・実習の進め方を修正する可能性があります。</p>
到達目標	<p>精神科臨床においてはアルコール使用障害者への支援は重要である。沖縄県内のアルコール使用障害は多い。しかし、彼らのなかには治療に対する動機づけが難しい患者も多く存在する。また、高齢のアルコール使用障害者や発達障害や統合失調症等の精神疾患を合わせもつ患者に対しては言語的、認知的介入のみの支援には限界がある。本講義を通して、アクション・メソッドの理論や技法を習得し、そのエッセンスを生かした心理臨床上の工夫を臨床現場で活用できるような視点や発想、技術を身につけることを目的とする。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 嗜癖者の心理と世代間連鎖	基礎知識の予習・復習
	2	社会心理学と学習心理学からの嗜癖行動の理解	基礎知識の予習・復習
	3	投映法を用いた嗜癖者の査定（ロールシャッハ・テストを中心に）	基礎知識の予習・復習
	4	嗜癖臨床と自助グループ（酒害体験者の語り）	基礎知識の予習・復習
	5	嗜癖臨床の実際① 認知行動療法 —なぜ・どのような時に飲んだのか？	基礎知識の予習・復習
	6	嗜癖臨床の実際② 解決志向アプローチ —飲まなかった時に何をしていたのか？	基礎知識の予習・復習
	7	嗜癖臨床の実際③-1 臨床動作法（講義・事例検討）	基礎知識の予習・復習
	8	嗜癖臨床の実際③-2 臨床動作法（実習）	実習体験を振り返ってミニレポート
	9	嗜癖臨床の実際④-1 ロールレタリング（講義・事例検討）	基礎知識の予習・復習
	10	嗜癖臨床の実際④-2 ロールレタリング（実習）	実習体験を振り返ってミニレポート
	11	嗜癖臨床の実際⑤-1 心理劇（心理劇の理論と事例検討）	基礎知識の予習・復習
	12	嗜癖臨床の実際⑤-2 心理劇（心理劇実習：ソシオドラマ）	実習体験を振り返ってミニレポート
	13	嗜癖臨床の実際⑥-3 心理劇（心理劇実習：サイコドラマ）	実習体験を振り返ってミニレポート
14	文学から学ぶ嗜癖（山頭火とレイモンド・カーヴァーの人生と作品から）	参考図書の読解	
15	統合的嗜癖治療プログラムの構築（試案） 虚しさに寄り添う・向き合う	講師の試案に対するミニレポート	
16	まとめとディスカッション	最終レポート	
テキスト・参考文献・資料など	<p>心理劇や動作法についての基礎知識がない方は事前に読んでおくことが望ましい。 参考文献①「サイコドラマの技法」 高良聖 岩崎学術出版社 参考文献②「臨床動作法への招待」 鶴光代 金剛出版 参考図書③「Carver's dozen—レイモンド・カーヴァー傑作選」 レイモンド・カーヴァー著 村上春樹翻訳 中公文庫</p>		
学びの手立て	<p>講義の中で受講生が支援者役—被支援者役でのロールプレイング、グループ体験の実習も取り入れる。積極的に取り組んでほしい。 学びを深めるために、沖縄県内で開催されている動作法の研修会、心理劇の研究会に参加することができる。</p>		
評価	<p>各講義時間における議論・実習への参加（50%）、ミニレポート（20%）、最終レポート（30%）</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>臨床心理基礎実習および臨床心理実習 グループアプローチ特論</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	児童福祉特論	後期	火7	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 昌哉	1年	比嘉研究室：5-418 mahiga@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「児童福祉特論」では、今日の子どもを取り巻く環境等を踏まえた上で主として学齢期における子どもの抱える諸課題について学び、さらに本人やその保護者を含む家族への支援について理解を深める。特に、スクールソーシャルワーク(以下、SSW)や社会的養護の現場に焦点をあて、同領域における子どもの権利、専門職のあり方等について理論を踏まえて実践過程について学ぶ。スクールソーシャ</p>	<p>学齢期における子どもの抱える諸問題について焦点をあてるため、平日頃より社会でどのような問題があるのか関心をもってほしい。その際、子どもやその家庭のニーズは何か、支援者として何をすべきか考えること。</p>
到達目標	<p>社会で生じている児童家庭福祉に関する諸問題を多角的視点から捉えることができる。また福祉現場の中核となる専門職として、新人職員等を指導できる力を身につける。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画(テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>①オリエンテーション 授業の目的等 ②子どもを取り巻く現代的課題 その1(子どもの貧困) ③子どもを取り巻く現代的課題 その2(児童虐待) ④SSW理論 その1 ⑤SSW理論 その2 ⑥SSW実践 その1 ⑦SSW実践 その2 ⑧社会的養護：施設養護 その1 ⑨社会的養護：施設養護 その2 ⑩社会的養護：家庭的養護 その1 ⑪社会的養護：家庭的養護 その2 ⑫子どもの権利擁護システム その1 ⑬子どもの権利擁護システム その2 ⑭子ども支援者へのスーパービジョン その1 ⑮子ども支援者へのスーパービジョン その2 ⑯まとめ</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>必要に応じ適宜示すこととする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・門田光司(ほか)(2014)：『スクールソーシャルワーカーのスーパービジョン研究-日本・アメリカ・カナダ・韓国での調査報告-』科研費基盤研究B。 ・山下英三郎(2012)：『修復的アプローチとソーシャルワーク』、明石書店。 ・藤岡孝志(2008)：『愛着臨床と子ども虐待』、ミネルヴァ書房。
	<p>学びの手立て</p> <p>自らの関心や修士論文テーマとの関連で、本科目の内容を理解するように努めること。また、図書館等を活用し、関連する論文等を積極的に収集し、講読すること。加えて、学内外で行われる講演会・研修会等にも積極的に参加すること。</p>
	<p>評価</p> <p>授業態度、出欠状況、プレゼンテーション及び課題等を総合して評価する。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>他の講義・演習科目との関連を意識し、修士論文作成にむけて取り組むこと。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人格心理学特論	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-堀毛 一也	1年	授業終了後、適宜教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 人間のパーソナリティの特質や、把握のしかたについて、自然科学、人間科学、社会科学、それぞれの最新の知見やアプローチのしかたについて概説します。	メッセージ 集中講義なので、受講される側も大変だと思いますが、頑張ってください
	到達目標 パーソナリティにおける遺伝と環境の関連や、進化との関連について説明できること（自然科学）、人間性心理学や物語論的立場からのパーソナリティ理解について説明できること（人間科学）、動機や目標、また社会一認知的なパーソナリティの理解のしかたについて説明できること（社会科学）を目標とします。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	パーソナリティ研究の歴史と方法（イントロダクション）
	2	特性論の基盤
	3	ビッグ・ファイブ研究の展開
	4	行動遺伝学的アプローチ
	5	進化と人間性
	6	ポジティブ心理学とポジティブな特性
	7	気質と自我の発達
	8	愛着理論の発展
学びの実践	9	人間性主義的アプローチ
	10	物語論的アプローチ
	11	ポジティブ感情と動機付け
	12	社会一認知的論の基盤
	13	特性論批判とCAPS理論
	14	状況・文化とパーソナリティ
	15	主観的well-beingの心理学
	16	
テキスト・参考文献・資料など 教科書：榎本博明・安藤寿康・堀毛一也（共著） 2009 パーソナリティ心理学：人間科学、自然科学、社会科学のクロスロード 有斐閣アルマ ¥1900+税 ISBN978-4-641-12377-9 参考書は講義内で紹介します		
学びの手立て 履修の心構え：これまでに受講してきた、パーソナリティ心理学に関連する知識を再度確認してきてください 学びを深めるために：事前に教科書に目を通してきてください。教科書に書かれている以外のことについても話をするので、事後学習で知識を深めてください		
評価 毎回の出席を前提として、それぞれの日の講義内容について、レポートを書いていただきます（60点）。最終日には授業内容について総合的なレポートを提出していただきます（40点）。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本講義の内容を基盤として、臨床や福祉など、それぞれの専門領域の研究の展開に役立ててください
-------	--

※ポリシーとの関連性

本領域のカリキュラム・ポリシー「臨床心理査定・臨床面接・臨床心理学的地域援助の実践力を高める」ための専門科目に相当する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	精神医学特論	後期	水6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	オムニバス	1年	世話役教員(井村弘子) h.imura@okiu.ac.jp 5号館424-2研究室 (098-893-3710)	

学びの準備	ねらい 精神医学の歴史と現状、医学における位置づけと領域、精神疾患の基礎知識(疾患の歴史と概念、疫学、成因、症状と経過、診断と治療、予後等)について学び、精神医学的援助と臨床心理学的援助の比較、協働していくための要点を修得することを目的とする。	メッセージ 精神科病院・クリニックで活躍されている精神科医師を招聘し、精神医学領域の諸問題について学ぶことができる貴重な講義である。
	到達目標 精神医学に関する専門的な知識を得る。 地域が抱える精神医学的な課題について、臨床心理学的な視点も交えて考察する。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画(テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1回 統合失調症(1)</td> <td>第2回 統合失調症(2)</td> <td>第3回 気分障害(1)</td> </tr> <tr> <td>第4回 気分障害(2)</td> <td>第5回 発達障害(1)</td> <td>第6回 発達障害(2)</td> </tr> <tr> <td>第7回 発達障害(3)</td> <td>第8回 身体疾患と精神療法(1)</td> <td>第9回 身体疾患と精神療法(2)</td> </tr> <tr> <td>第10回 思春期・青年期の精神障害</td> <td>第11回 高齢者の精神障害</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第12回 不安障害</td> <td>第13回 パーソナリティ障害</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第14回 アルコール問題と精神障害</td> <td>第15回 ギャンブル問題と精神障害</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第16回 精神医学と臨床心理学との協働</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	第1回 統合失調症(1)	第2回 統合失調症(2)	第3回 気分障害(1)	第4回 気分障害(2)	第5回 発達障害(1)	第6回 発達障害(2)	第7回 発達障害(3)	第8回 身体疾患と精神療法(1)	第9回 身体疾患と精神療法(2)	第10回 思春期・青年期の精神障害	第11回 高齢者の精神障害		第12回 不安障害	第13回 パーソナリティ障害		第14回 アルコール問題と精神障害	第15回 ギャンブル問題と精神障害		第16回 精神医学と臨床心理学との協働		
	第1回 統合失調症(1)	第2回 統合失調症(2)	第3回 気分障害(1)																			
	第4回 気分障害(2)	第5回 発達障害(1)	第6回 発達障害(2)																			
	第7回 発達障害(3)	第8回 身体疾患と精神療法(1)	第9回 身体疾患と精神療法(2)																			
第10回 思春期・青年期の精神障害	第11回 高齢者の精神障害																					
第12回 不安障害	第13回 パーソナリティ障害																					
第14回 アルコール問題と精神障害	第15回 ギャンブル問題と精神障害																					
第16回 精神医学と臨床心理学との協働																						
<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>講義資料は随時配布する。 石丸昌彦・仙波純一著 「精神医学特論」 (財)放送大学教育振興会 ほか</p>																						
<p>学びの手立て</p> <p>外部講師(精神科医師)を招聘して行われる講義なので、遅刻・欠席は厳禁。 貴重な機会なので、講師への質問、ディスカッションを積極的に行うこと。</p>																						
<p>評価</p> <p>出席状況、講義への参加態度、学期末試験(レポート)等で評価する。</p>																						

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「臨床心理事例検討実習」「臨床心理基礎実習」「臨床心理実習」等の実習科目と関連するので、修士1年で履修することが望ましい。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	投映法特論	前期	金 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-稲田 梨沙	1年	稲田梨沙 <r.inada@okiu.ac.jp>	

学びの準備	ねらい 心理検査の中でも投映法検査について取り上げる。主にロールシャッハ・テストの適切な実施方法、結果の整理、解釈の基本的な考え方について体験的に学習した上で、検査報告書の書き方、テストバッテリーの組み方、心理的援助に結びつく総合所見の書き方などを身につけることを目的とする。	メッセージ 演習の一環として事前に必ず被験者体験をし、データを手元に用意すること。投映法検査について、各検査の成り立ち、目的、構成、手順、測定方法などについて各自整理しておくこと。
	到達目標 "投映法検査を臨床場面で実際に活用するには、さらなる研修が必要であるが、その基礎を学ぶ機会になればと考える。この科目を履修することによって主にロールシャッハ・テストの実施と結果整理ができるようになる。その分析や解釈方法については、事例を通して理解を深めることができるようになる。 "	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	臨床心理学における心理査定について	臨床心理学の査定について調べる
	2	投映法被験者体験を振り返る	被験者体験後感想をまとめておく
	3	投映法検査概論	投映法検査の種類について調べる
	4	ロールシャッハ・テストの歴史と実施方法	ロ・テの歴史と実施 テキスト予習
	5	ロールシャッハ・テストの結果整理の方法	ロ・テの結果整理 ”
	6	ロールシャッハ・テストのスコアリング方法	ロ・テのスコアリング ”
	7	ロールシャッハ・テストの分析・解釈の方法	ロ・テの分析・解釈 ”
	8	架空事例のスコアリング実習	スコアリングをすべてまとめる
	9	架空事例の結果整理実習	結果を最後まで整理する
	10	事例Aのスコアリング実習	スコアリングをすべてまとめる
	11	事例Aの結果整理実習	結果を最後まで整理する
	12	事例Aの見立てと所見の書き方	所見の書き方について調べ学習
	13	スコアリングの実践	スコアリングをすべてまとめる
	14	結果整理の実践	結果を最後まで整理する
15	所見のまとめ方実践	所見を仕上げる	
16	最終レポート作成・提出 (到達度の確認)	最終レポート作成・提出	
テキスト・参考文献・資料など テキスト：片口安史 「改訂新・心理診断法」 金子書房			
学びの手立て "①履修の心構え 欠席するとその後の理解に支障をきたすため、皆出席かつ遅刻厳禁。 ②学びを深めるために 臨床現場でのボランティア活動等を行うことを奨励する。"			
評価 "評価方法 発表、討論への参加、提出されたレポート等から総合的に評価する。 割合 平常点(出席状況等) 30% 課題レポート50% 最終レポート20% 上記の評価方法については、講義初日に詳細に説明する。"			

学びの継続	次のステージ・関連科目 "関連科目 「臨床心理査定演習Ⅰ」「臨床心理査定演習Ⅱ」を受講することが望ましい。 次のステージ 「臨床心理基礎実習」「臨床心理実習」「臨床心理事例検討実習」などを受講する中で、事例を通してさらに理解できることが望ましい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人間福祉特殊研究 I A	通年	水 7	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	保良 昌徳	1年		

学びの準備	ねらい 本講のねらいは以下の通りとする。① 各自の研究テーマについて明確にする。② 先行研究を収集・精読し、現状の研究の状況や到達点等を明確にする。③ 研究の現状等の中で、自らの研究を位置づけ明確にする。④ 量的研究・質的研究等、また信頼性・妥当性等について十分理解する。⑤ 以下、各自の進捗状況に応じて、研究計画の作成等に取り組む。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>前期</p> <p>第1週～第3週 講義の概要説明・研究計画等に関する確認 第3週～第10週 先行研究の精読及び報告 第11週～第12週 研究方法に関する検討 第13週～第14週 研究計画の発表（中間報告会） 第15週 研究計画の確定・計画書の提出</p> <p>夏季休暇</p> <p>各自、自分の研究計画に基づく基礎調査の実施・まとめ作業を行う</p> <p>後期</p> <p>第16週～第17週 夏季休暇中の基礎調査結果の報告 第18週～第22週 研究テーマ・先行研究の再検証 第23週～第25週 研究の動向・方法に関する再検証 第26週～第28週 研究テーマの確定（第2回中間報告会） 第29週～第31週 研究計画書のまとめ・再提出</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じ、資料・コピー等を配信又は配布する。 ・受講生は自らの研究に関連して、①最も重要であると判断する文献、②研究の方法に関する文献、③論文作成に関する文献を、それぞれ一冊ずつ指定し常に持参すること。 ・必要に応じ紹介する。
	<p>学びの手立て</p>
	<p>評価</p> <p>本講の評価は、以下の項目をもって行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 出席等は一定の方法に従って採点する。 ② レポート等の提出状況及び内容 ③ 中間報告会等の内容 ④ その他

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人間福祉特殊研究 I B	通年	水 5	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安次富 郁哉	1 年	担当教員宛にメールしてください。 i.ashitomi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本授業は、2年間で完成させなければならない修士論文執筆のための準備期間として位置づけ展開する。具体的な展開方法としては、①研究に対する意識を高める、②研究方法、特に量的調査研究方法の基礎を修得する。③論文執筆に必要な先行研究の検索と精読、④研究テーマの明確化、⑤研究プロトコルの策定、⑥プレ調査の実施と本調査計画の6点ある。	メッセージ 自身の研究に関する先行研究について精読する。
	到達目標 研究仮説を明確に示すことが出来、また、その仮説を説き明かすためのツールを十分に使いこなせるようになること。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1週目 オリエンテーション 2週目－3週目 保健・医療・福祉領域における研究テーマの紹介 4週目－5週目 社会調査の概要：質的調査、量的調査 倫理と個人情報：学内倫理委員会 審査手続き等 6週目－7週目 研究に対する意識：学会参加によって研究者としての意識を高める。 8週目－10週目 研究領域の決定とテーマ及び仮説の明確化、先行研究の探索 及び精読 11週目－15週目 修士論文執筆プロトコル検討及び夏季休暇中に研究対象フィールドの検討とプレ調査実施 16週目－20週目 修士論文執筆プロトコル決定、本調査計画（対象フィールド決定）、学内倫理委員会手続き 21週目－22週目 本調査実施計画① 対象フィールド踏査 23週目－30週目 本調査計画② 対象フィールドの特性を踏まえて調査計画を立案 31週目 口頭試験
	テキスト・参考文献・資料など 特に指定しない。 ①「道具としての統計学」ルイ・パストゥール医学研究センター・奥田千恵子著、金芳堂出版 ②「SPSSで学ぶ統計分析入門」馬場浩也 東洋経済新報社 ③その他の参考図書については、講義の中で随時紹介する
	学びの手立て 量的調査を主とする論文指導をおこなうため、統計手法には慣れておく必要がある。また、論文執筆には先行研究論文が重要であるため、多くの論文の精読をこころがける。
	評価 出席・課題提出状況・口頭試験・討論への発言状況等を総合的に評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 特殊研究 II をみすえてのプロトコルの作成、先行研究などの情報収集が必要となる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人間福祉特殊研究 I C	通年	水 5	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小柳 正弘	1 年	mkoyanagi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 修士論文作成に必要とされる研究上の予備的作業を行う。	メッセージ
	到達目標 修士論文の構成、所要の調査の設計、先行研究の整理が終了し、自身の修士論文の目的、方法、意義について明確な説明ができるようになる。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>下記の手順で演習を進め、随時、発表・報告を行わせる。</p> <p>第1セメスター</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 問題意識の整理→研究計画書・学部卒業論文の吟味 2. 関連先行研究の概観→参考文献の収集とリストの作成 3. テーマの決定→基本文献の選定・問題の具体化・結論の展望 4. 研究手法の検討→必要とされる準備の把握・予備調査等の実施 5. 夏季休暇中の研究計画とセメスターのまとめを提出 <p>第2セメスター</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 参考文献の読みこみ→研究動向概要の作成 7. 研究上の位置づけ・意義の検討→研究テーマの再検討 8. 基本文献の読解／本調査の実施 9. 論点の整理→論文構成概略の作成 10. 春季休暇中の研究計画とセメスターのまとめを提出
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>なし。</p> <p>授業中に適宜、紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>年度当初に入学までの研究実績（論文、レポート、研究計画、その他）のコピーを提出すること。</p>
	<p>評価</p> <p>論文作成のための予備的作業の進捗状況を中心に、授業への実質的なかわり、提出物の内容、発表・報告におけるプレゼンテーションなどを総合的に評価する。</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人間福祉特殊研究ⅠD	通年	木5	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子	1年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 社会福祉学研究全体の動向を理解した上で、自身の関心分野の研究動向を確認します。研究の進め方を理解し、研究計画を作成、検討します。受講生の研究テーマに寄り添いながら主要参考文献を発表し議論を深めます。	メッセージ 受講生の研究活動を応援します。
	到達目標 研究計画を立て、研究活動のプロセスを確立します。	

学びの準備	到達目標 研究計画を立て、研究活動のプロセスを確立します。

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p><第1セメスター></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉学研究の概要を理解する。 2. 研究の進め方を理解する。 3. 問題意識の整理、参考文献の収集とリストの作成 4. 主要参考文献を精読、発表する。 5. 夏季休暇中の研究計画とセメスターのまとめを提出 <p><第2セメスター></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主要参考文献を精読、発表する 2. 研究計画に沿って調査を実施する。 3. 春季休暇中の研究計画とセメスターのまとめを提出
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>随時紹介します。特定のテキストはありません。</p>

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>随時紹介します。特定のテキストはありません。</p>
-------	---

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>学会や研究会に積極的に参加しましょう。他の学生の研究にも関心を持ち議論を深め視野を広げましょう。</p>
-------	---

学びの実践	<p>評価</p> <p>研究内容（70%）、研究の主体的取り組み状況（30%）</p>
-------	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>次のステージ：人間福祉特殊研究Ⅱにつなげていきます。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人間福祉特殊研究 I E	通年	水 6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ドナルド クレイグ ウィロックス	1年		

学びの準備	ねらい 本授業のねらいは以下のとおりとする。 1. 研究方法に関する理解 2. 各自の研究テーマの確定 3. 専攻研究まとめと研究の位置づけの明確化 4. 研究計画(調査方法・時期、分析方法など)の確定 5. 基礎調査等の実施	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>・授業と個別指導を取り混ぜながら行う。・前期では、研究の意味や基本的視点、研究に必要な情報検索・調査・分析に関する一般的な方法論、倫理等について再確認する。・論文購読、学会参加、実際の研究活動や発表に参加を通して研究活動についての理解を深める。・研究フィールドの確定と現場への参加を通して、実践例・事例等への接触と観察、基礎的な資料の作成を行う。・学会や研究会への参加を通して研究活動に取り組む。・講義終了までには、研究計画を完成させる。</p> <p><前期> 第1回：オリエンテーション 第2回：各自の研究テーマの紹介。 第3回：研究課題とフィールドの明確化。 第4～8回：研究の意味と基本的視点、情報検索・調査・分析に関する一般的な方法論、倫理等について再確認。 第9～10回：検索、方法の実際、論文購読。個別指導。 第11～14：中間報告(1回目) 個別発表、全体検討、課題の明確化、個別指導。 第15回：前期のまとめ。 夏季休暇中：学会参加を奨励。</p> <p><後期> 第16～18回：中間報告会(2回目) 個別発表、全体検討、課題の明確化。 第19～24回：先行研究・個別研究指導。 第25～28回：中間報告会(3回目) 個別発表、全体討議、課題の明確化。 第29～30回：まとめ、提出、報告。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>【テキスト】 沖縄で学ぶ 福祉老年学 (学文社) 金城 一雄・国吉 和子・山城 寛 編著 2009年 健康長寿の条件：元気な沖縄の高齢者たち (株式会社ワールドプランニング) 崎原 盛造・芳賀 博 2002年</p> <p>【参考文献】 適宜、論文等を紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>出席状況、講義への積極的な取り組み、提出物、課題など総合的に判断する</p>
	<p>評価</p> <p>①出席、レポート提出。②クラス討論、授業内での発表。③研究テーマの確定および取組状況。④研究発表報告の内容と達成度。 出席およびレポート提出状況を重視する。</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人間福祉特殊研究Ⅱ	通年	水6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	保良 昌徳	2年	講義の中で受け付ける オフィスアワーの活用を歓迎する	

学びの準備	ねらい これまでの調査・分析の結果を再検討し、論文を仕上げる 先行研究・自分の研究領域の位置づけを明確に説明できる 研究方法・信頼性・妥当性等について明確に説明ができる 自分の研究成果の意義について明確に説明ができる	メッセージ 類似の内容や方法の先行研究を精読理解し、自分の研究の方法・ 意義・成果等について説明ができるように常に意識すること
	到達目標 修士論文の完成	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	講義の中で提示する
	2	これまでの研究の進捗状況の確認	同上
	3	テーマについて再確認	同上
	4	先行研究と研究領域の現状について	同上
	5	研究分野における自分の研究の位置づけ	同上
	6	期待される成果・限界	同上
	7	研究の方法の確認	同上
	8	研究計画の再検討と今後の活動計画	同上
	9	補足調査等への取り組み①	同上
	10	上記取り組み	同上
	11	研究活動の再確認・検証・助言等	同上
	12	個別指導①	同上
	13	個別指導②	同上
	14	中間報告・発表準備	同上
	15	中間報告・指導・課題等の提示	同上
	16	夏期休暇中の研究の進捗状況について	同上
	17	進捗助教と補足指導	同上
	18	作業状況の確認・指導①	同上
	19	作業状況の確認・指導②	同上
	20	作業状況の確認・指導③	同上
	21	論文の仮提出	同上
	22	中間報告会・指導	同上
	23	提出論文の修正・指導①	同上
	24	提出論文の修正・指導②	同上
	25	提出論文の修正・指導③	同上
	26	完成論文としての提出	同上
	27	提出論文の再確認・指導	同上
	28	最終発表の準備①	同上
29	最終発表の準備②	同上	
30	最終発表	同上	
31			

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて指示又は資料やコピー等を配布する。 自らの研究に関連する論文・関連する文献等 論文作成に関する文献 上記の具体的内容は講義の中で提示する</p>
	<p>学びの手立て 学会での類似研究の動向に関心を持ち、情報収集に努めること 開催される学会には可能な限り参加し発表に触れること 発表の機会は可能な限り活用し、自分の研究への助言を多く得ること</p>
	<p>評価 作成された修士論文の完成度（80%）＋受講態度(20%)</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人間福祉特殊研究ⅡA	通年	水6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	保良 昌徳	2年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講のねらいは以下のとおりとする。① これまでの2回のセメスターや調査の結果をもとに、最終的な修士論文を仕上げる。② 先行研究の状況、そこにおける自分の研究領域の位置づけを明確に説明できる。③ 自分の研究方法、特に調査法及びその信頼性・妥当性について、明確に説明ができる。④ 論文の構成・形式等について、十分な理解し、作成ができること。⑤ 自</p>	
	到達目標	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>本講の展開は以下のとおりとする。</p> <p>前期（第3セメスター）</p> <p>1週目～2週目 オリエンテーション・研究状況の報告</p> <p>3週目～4週目 個別指導（研究内容・進め方等の再確認）</p> <p>5週目～13週目 個別指導、修論ドラフトの提出</p> <p>14週目～15週目 中間報告会、まとめ</p> <p>後期</p> <p>1週目～2週目 オリエンテーション、論文の再確認</p> <p>3週目～10週目 個別指導（論文の添削指導）</p> <p>11週目～13週目 論文の仕上げ・最終校正、プレゼンの準備開始</p> <p>14週目～15週目 まとめ、要約作成、論文の提出</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて指示又は資料やコピー等を配布する。 ・受講生は自らの研究に関連して、①最も重要であると判断する文献、②研究の方法に関する文献、③論文作成に関する文献を、それぞれ一冊ずつ指定し常に持参すること。 ・講義の中で必要に応じて指示する。
	<p>学びの手立て</p>
	<p>評価</p> <p>本講の評価は以下の点を参考に行う。</p> <p>① 出席状況（学則に則る）</p> <p>② 支持された報告書等の提出状況</p> <p>③ 中間報告会の内容及び第三者の評価</p> <p>④ 論文の整い方や最終発表の内容</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人間福祉特殊研究ⅡB	通年	水6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安次富 郁哉	2年	担当教員宛にメールしてください。 i.ashitomi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	人間福祉研究ⅡBは、修士論文執筆の完成年度として、人間福祉研究ⅠBに引き続き開講される科目である。研究プロトコルに基づき量的調査あるいは質的調査を実施し、集計・解析してまとめ、修士論文を執筆する。したがって、本講義では、修士論文中間報告、修士論文提出、最終試験までの各プロセスにおける指導を重点的にこなうことを目的とする。	他研究者の論文を批判的視点から精読する。また、自身の研究に関する先行研究については、多くの論文を精読する必要がある。
到達目標	到達目標は伊阿寒通りである。①研究仮説を明確に示すことができる。②プロトコルに基づき、研究をすすめることができる。③研究仮説を明確に実証するために、専攻研究論文等を活用し、論理的に展開することができる。	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>第1週目：オリエンテーション及び研究テーマ・研究仮説・研究方法等確認 第2週目から第5週目：研究プロトコルの確認と実際の研究の進め方 第6週目から第16週目：執筆指導及び中間報告内容確認・発表指導 第17週目から第27週目：中間報告指導及び提出論文指導 第28週目から第31週目：提出論文指導</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは特に指定しない。毎回の講義の資料については原則教員が準備して配布する。 参考図書・論文については、講義の中で随時紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>論文執筆には先行研究論文が重要であるため、多くの論文を集め精読すること。</p>
評価	出席状況、課題提出状況及び課題等を総合的に評価する。

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>修士論文執筆を視野にいれた、論文精読が必要になる。他者の論文を批判的・客観的・建設的に読むようこころがける。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人間福祉特殊研究ⅡC	通年	木5	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小柳 正弘	2年	mkoyanagi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 修士論文を作成し、完成させる。	メッセージ
	到達目標 修士論文を完成し、その目的、方法、意義について、コンパクトに説明できるとともに、必要に応じて、詳細な補足説明ができるようになる。	

学びの準備	到達目標 修士論文を完成し、その目的、方法、意義について、コンパクトに説明できるとともに、必要に応じて、詳細な補足説明ができるようになる。
-------	--

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>下記の手順で演習を進め、随時、発表・報告を行わせる。</p> <p>第3セメスター</p> <p>①基本文献の読解／本調査の結果に関する考察 ②論文構成の吟味→論理的一貫性の検討 ③論文概要の作成→修士論文中間発表の準備 ④論文全体の草稿を作成 ⑤夏季休暇中の研究計画とセメスターのまとめを提出</p> <p>第4セメスター</p> <p>⑥内容の独創性・論理的一貫性の再検討 ⑦文献読解・調査手法などの妥当性の点検 ⑧書式の点検 ⑨論文の完成→最終試験・最終発表会の準備</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>【テキスト】 なし。 【参考文献】 授業中に適宜、紹介する。</p>

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>【テキスト】 なし。 【参考文献】 授業中に適宜、紹介する。</p>
-------	---

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>年度当初に前年度までの研究実績（論文、レポート、その他）のコピーを提出すること。</p>
-------	---

学びの実践	<p>評価</p> <p>修士論文作成の進捗状況を中心に、授業への実質的なかわり、提出物の内容、発表・報告でのプレゼンテーションなど、修士論文完成の見込みを総合的に評価する。</p>
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人間福祉特殊研究ⅡD	通年	木6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 特殊研究ⅠDの成果を踏まえながら研究を発展させる。先行研究を多角的に読み込み、研究の土台を築くと共に研究の独自性を追究する。研究成果を効果的に発表する技術を身につける。	メッセージ 論文を完成させ、研究成果を発表できるように応援します。
	到達目標 修士論文を完成させる	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） <前期> 1. 調査の結果に関する考察 2. 論文構成の吟味 3. 中間発表の準備 4. 夏季休暇中の研究計画とセメスターのまとめを提出 <後期> 1. 内容の独創性・研究目的との整合性の検討 2. 文献読解・調査手法などの妥当性の点検 3. 論文まとめ 4. 最終試験・最終発表会の準備
	テキスト・参考文献・資料など 随時紹介します。特定のテキストはありません。
	学びの手立て 学会や研究会に積極的に参加しましょう。他の学生の研究活動にも関心を持ち議論を深め視野を広げましょう
	評価 研究内容（70%）、研究の主体的取り組み状況（30%）

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のステージ：研究活動の経験を大学院終了後も続けることを期待します。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人間福祉特殊研究ⅡE	通年	水7	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ドナルド クレイグ ウィルコックス	2年		

学びの準備	ねらい 特殊研究Ⅰでの成果を基本に、各自の専門領域の確定と研究者としての自覚・技術を養いながら、理論・仮説の点検、調査実施方法の準備を行う。そして、調査実施・調査結果の整理等を行いながら、研究の精度を高め修士論文の完成を目指す。修士論文完成後の発表会においては、学会発表の行い方についても学ぶ。一連の作業過程を通して研究者としての基礎を築いていく。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 クラスでの報告、全体討論、個別指導を通して研究の指導を行う。 2 調査方法を確立し、調査資料の整理方法、統計資料としての処理方法等も進める。 3 調査を実施し、資料の処理を行う。 4 修士論文の作成を開始し、11月末前には修士論文の素案を提出。最終指導を開始する。 5 学会発表形式に準じた発表の方法・内容について学ぶ。 <p>第1回：講義の進め方に関する説明 第2回～5回：中間報告会①（研究活動の報告と討論、研究の進め方の指導） 第6回～11回：論文の構成・作成手順等の再確認。 調査における信頼性妥当性への配慮、分析方法への再確認を行う。 第12回～14回：中間報告会②（調査日程、分析方法） 第15回：前期のまとめ 第16回：後期の進め方に関する説明 第17回～26回：修士論文の提出へ向けて論文作成指導 第27回～30回：修士論文発表へ向けての指導</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>【テキスト】 特に指定はない。必要であれば指示をする。</p> <p>【参考文献】 必要に応じて指示をする。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>参考文献や資料等は、積極的に収集・読解・整理しておくこと。 講義中は積極的に発言や討論に参加すること。</p>
	<p>評価</p> <p>出席・レポート・受講態度（質疑など）・修士論文などを総合的に評価する。</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性

この科目は「個人や社会の福祉問題に関する適切な研究活動」の土台となる見識の一端を提供するものである。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人間福祉特論	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小柳 正弘	1年	mkoyanagi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業は、テキストの批判的読解と受講者との議論により、人間と福祉とのかかわりについて原理的な考察をおこなうものである。	メッセージ 「ともに考える」ことへの主体的な取り組みを求める。
	到達目標 伝統的支援原理としての「隣人愛」がどのような意味で「現場の理念」となりうるか、いくつかの可能性をコンパクトに述べるができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） <input type="checkbox"/> 社会福祉の原理と人間の倫理を架橋する「現場の理念」となりうるものを探索・検討する。 今年度は、伝統的支援原理の一つである「隣人愛」についての原理的検討を行う。 <input type="checkbox"/> 授業は以下のような段取りでおこなう。 ・文献について受講者が交替で分担してレジюме（A4、1～2枚、40字×30行）をつくり、概要を報告する。 ・報告担当者以外の受講者は批判的コメント（A4、1枚、40字×30行程度）を準備する。 ・概要とコメントふまえて全員で議論する。
	テキスト・参考文献・資料など テキスト・遠藤徹『〈尊びの愛〉としてのアガペー』教文館
	学びの手立て
	評価 報告、レジюме、コメント、議論への貢献などを総合的に評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名 認知心理学特論	期別 前期	曜日・時限 月 5	単位 2
	担当者 前堂 志乃	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ 研究室：5-431 e-mail:mshino@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 認知心理学の主要テーマ（知覚、思考、言語、記憶、感情、注意と意識など）の知見や理論を学ぶ。また、認知心理学や認知科学の分野で蓄積されてきた脳とこころの働きについての研究法についても学ぶ。文献の講読や対話を通じ「日常の中の認知的活動」と「脳と認知的活動」の2つの視点を意識して学び、認知心理学的視座から、ひと（自己と他者）の認知のあり方を理解する力を高める。	メッセージ 授業内・外で、「ものごとを認識すること、理解すること、考えること」というこころの働き（認知過程・認知活動）について、文献を読み、対話し、考える機会を多く経験してほしい。日頃から自分や人々のこころの動きや働き、認識と感情と行動の関係を意識的に観察してほしい。目に見えない認知について「観察し、読み、話し、考える」ことを楽しみ、自他のこころの理解に繋げてほしい。
	到達目標 ①認知心理学の知識をもちいて人間のこころの働きや諸問題について理解と考察を深める、認知心理学的視点を身につけることができる。 ②認知心理学的視点をもちいて、人間のこころの働きや諸問題について、深く検討し、問題解決にあたることができる。 ③認知心理学的視点をもちいて、臨床心理学的実践力や臨床心理学的研究力を高めていくことができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	オリエンテーション・認知心理学とは
	2	自己の認知活動について意識するワーク①
	3	自己の認知活動について意識するワーク②
	4	自己の認知活動について意識するワーク③/認知心理学の歴史とテーマ
	5	視覚認知/感性認知
	6	注意/ワーキングメモリ
	7	長期記憶/日常認知
	8	カテゴリー化/知識の表象と構造
	9	言語理解
	10	問題解決と推論/判断と意思決定
	11	認知と感情/認知進化と脳
	12	認知的発達/社会的認知
	13	文化と認知/メディア情報と社会認識
	14	メタ認知
	15	認知心理学的視点で自己の課題を考える/まとめ
16	予備日	
		時間外学習の内容 シラバス等の内容理解/観察課題 次回のワークの準備 次回のワークの準備/次回の予習 次回の予習/今回の復習 次回の予習/今回の復習 次回の予習/今回の復習 次回の予習/今回の復習 次回の予習/今回の復習 次回の予習/今回の復習 次回の予習/今回の復習 次回の予習/今回の復習 次回の予習/今回の復習 次回の予習/今回の復習 次回の予習/今回の復習/期末課題

テキスト・参考文献・資料など テキスト：箱田裕司他（著）（2013）． 認知心理学 有斐閣 ＊テキストは毎回の授業に使用する。各自準備し、持参すること。 参考文献：必要に応じて資料を配布する。以下の①～③の参考図書参照するとよい。 ①森敏昭・井上毅・松井孝雄（2009）． グラフィック認知心理学 サイエンス社 ②森敏昭・中條和光（2007）． 認知心理学キーワード 有斐閣叢書 有斐閣 ③日本認知心理学会（編）（2013）． 認知心理学ハンドブック 有斐閣ブックス 有斐閣

学びの手立て ・予習・復習において、テキスト精読とワークシートのまとめ、日常観察を課します。予・復習の内容にもとづいて授業内での小グループワーク（課題について対話をしながら考える）を行います。「ひとの認知」について「よく読み、よく観察し、よく話し、よく考える」ことに積極的に取り組んでください。 ・「臨床心理学系科目の学び」、「心理臨床の現場経験と課題」、「日常の心の動きや行動」と「認知心理学」の学びを、関連づけながら物事を捉え考えることを意識して習慣づけてください。

評価 平常点（出席状況、授業内ワークへの参加態度、予・復習ワークシートの内容と提出状況）…50% 期末課題（ポートフォリオとレポート課題の内容）…50%
--

学びの継続 次のステージ・関連科目 本講義の内容を基盤として、臨床や福祉など、それぞれの専門領域の研究や実践の展開に役立ててください
--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	犯罪心理学特論	前期	木7	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山入端 津由	1年		

学びの準備	ねらい 非行・犯罪のある者に対する的確な鑑別診断技法の学習及び心理教育・臨床心理学的援助技法の習得を目指す。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1 非行・犯罪を理解する基礎を学ぶ 2 非行・犯罪理論と非行・犯罪臨床 3 社会と個人の相互作用過程と非行・犯罪 4 非行・犯罪臨床と刑事政策 5 資質鑑別事例研究1（財産犯・経済犯罪） 6 資質鑑別事例研究2（暴力犯罪） 7 資質鑑別事例研究3（性暴力犯罪） 8 資質鑑別事例研究4（犯罪深度・要保護性） 9 資質鑑別事例研究5（異常心理学と犯罪・精神鑑定） 10 非行・犯罪とカウンセリング 11 非行・犯罪のある人への心理教育及び心理臨床的援助法 12 薬物依存症者に対する集団精神療法 13 非行・犯罪臨床と被害者支援 14 非行・犯罪臨床と犯罪報道 15 まとめ 16 テスト
	テキスト・参考文献・資料など 特に指定しない。 ①犯罪心理学（大淵憲一・培風館） ②図解雑学 犯罪心理学（細江達郎・ナツメ社）
	学びの手立て
	評価 出席、レポート内容、授業での発言・発表内容等を総合的に評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	保健医療政策特論	通年	木6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安次富 郁哉	1年	担当教員宛にメールして下さい。 i.ashitomi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義のねらいは2点である。①我が国における医療政策、保健政策の現状を理解し、問題点、今後の課題を探求する。②我が国の医療提供構造を理解する。特に、病院完結型医療から地域完結型医療への推進による「地域連携」のあり方について理解する。	メッセージ 本科目に関する論文の精読を中心として、講義を展開するため、常に我が国の保健医療政策に興味を示す必要がある。
	到達目標 到達目標は次の通りである。①我が国の保健医療政策について概要を説明することができる。②我が国の保健医療政策について、批判的、客観的にみることができる。③我が国の保健医療政策の問題点・課題について説明ができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	前期オリエンテーション（計画・調整）	
	2	我が国の医療の現状①医療資源（全般）	保健医療政策について調べる
	3	医療資源関連論文抄読（医療全般）	
	4	我が国の医療の現状②医療資源：人	
	5	医療資源関連論文抄読（医療従事者）	
	6	我が国の医療の現状③医療資源：物	
	7	医療資源関連論文抄読（医療施設）	
	8	我が国の医療の現状④医療資源：財	
	9	医療資源関連論文抄読（医療施設）	我が国の医療政策の動向について
	10	診療報酬・・・出来高から包括へ	
	11	DPC①制度導入経緯	
	12	DPC②DPCとは	
	13	DPC③DPCとは	
	14	DPC制度を巡る問題及び課題	
	15	DPC制度を巡る問題及び課題	
	16	前期振り返り	
	17	後期オリエンテーション（計画・調整）	地域完結型医療について
	18	医療提供構造①：平均在院日数短縮化	
	19	医療提供構造②：急性期型病院	
	20	医療提供構造③：クリティカルパス	
	21	医療提供構造③：医療連携（病・病）	
	22	医療提供構造④：医療連携（病・診）	
	23	医療提供構造⑤：医療連携（モール）	
	24	医療提供構造が変わる！？	地域包括ケアシステムについて
	25	地域医療計画①概論	
	26	地域医療計画②沖縄県	
	27	地域連携：医療の出口に福祉あり	
	28	病院完結型医療から地域完結型医療へ	
29	クリティカルパス①：院内パス		
30	クリティカルパス②：地域連携パス		
31	振り返り		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 特に指定しない。その都度資料を配布する。 「日本医事新法」（研究室定期購読）、「病院」（図書館所蔵雑誌）、厚生労働白書、国民衛生の動向など医療 関連雑誌・図書等</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 少なくともマスメディアで取り上げられる保健医療政策について熟知すること。</p>
学 び の 継 続	<p>評価 出席状況、課題提出、討論への参加について総合的に評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 保健医療政策について学び、自身の修士論文の研究領域につなげる。関連科目は、人間福祉特殊研究ⅠB及びⅡB である。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	臨床心理学特殊研究 I C	通年	金 6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	井村 弘子	1年	5号館424-2研究室 (098-893-3710) h.imura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 臨床心理学研究の基礎理論・研究方法等について学びながら、各自の研究テーマを設定し、修士論文作成に向けた具体的な研究計画を立て、研究に着手することを目的とする。	メッセージ 大学院での学業生活の集大成である修士論文に向け、研究課題・論文の構想を明確にするという目標に意欲的に取り組んでほしい。
	到達目標 臨床心理学的研究技法の修得 修士論文の構想	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	臨床心理学研究概論（1）臨床心理学の領域と研究法	
	3	臨床心理学研究概論（2）研究のプロセス	
	4	臨床心理学研究概論（3）研究倫理	
	5	臨床心理学研究方法論（1）量的研究法	
	6	臨床心理学研究方法論（2）質的研究法	
	7	臨床心理学研究方法論（3）データ収集と分析法	
	8	研究テーマ発表（1）テーマの概要	
	9	研究テーマ発表（2）テーマの論点	
	10	研究テーマ発表（3）テーマ設定と報告	
	11	研究文献発表（1）先行研究の概要	
	12	研究文献発表（2）先行研究の論点	
	13	研究文献発表（3）先行研究のまとめと報告	
	14	集団討議（1）テーマに関する批判的検討	
	15	集団討議（2）テーマの関する建設的提言	
	16	集団討議（3）テーマに関する個別報告	
	17	研究デザイン発表（1）デザインの概要	
	18	研究デザイン発表（2）デザインの独自性・課題・問題点	
	19	研究デザイン発表（3）デザインのまとめと報告	
	20	集団討議（4）デザインに関する批判的検討	
	21	集団討議（5）デザインに関する建設的提言	
	22	集団討議（6）デザインに関する個別報告	
	23	研究方法発表（1）研究方法の概要	
	24	研究方法発表（2）研究方法の論点	
	25	研究方法発表（3）研究方法のまとめと報告	
	26	集団討議（7）データ収集と分析に関する批判的検討	
	27	集団討議（8）データ収集と分析に関する建設的提言	
	28	修士論文構想発表（1）研究計画書の概要	
	29	修士論文構想発表（2）研究計画書の論点	
30	修士論文構想発表（3）研究計画書の作成と発表		
31	まとめ		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 特に定めないが、各自の研究テーマにふさわしいものを随時紹介する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 常に問題意識を持ち、自ら学ぶ姿勢を確立すること。 教員・他の院生とのディスカッションに積極的に参加すること。</p>
	<p>評価 発表内容、研究進行状況、討議参加への姿勢や発言などを総合的に評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 次年度は「臨床心理学特殊研究ⅡC」を履修し、専門的能力をさらに高めてゆく。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	臨床心理学特殊研究 I A	通年	金 6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上田 幸彦	1年		

学びの準備	ねらい 修士論文を書くことで、臨床における科学的見方を身につけ、将来の科学者－実践家モデルとなる下地を作ることをねらいとする。2年間で修士論文を書き上げるためには、1年時は準備期間となるが、この1年間で、臨床心理学における研究領域と研究方法、テーマ設定、仮説構築と検証方法、データ収集の方法、研究における倫理的配慮、統計的技法の選択、文献検索の方法、科学論文の書き方を	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>前期ではまず、各自の卒業論文の概要と関心のある領域・テーマについて発表・ディスカッションを行いながら、関心のある研究領域の拡大を行う。 次にその中から各自のテーマに関連する論文を読み、論点を整理し発表する。これを繰り返しながら各自の研究テーマと研究目的を絞り込んでいく。 後期において、研究目的を達成するための方法論の検討を行い、研究計画を立てる。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>臨床心理学の研究の技法 下山晴彦 編 (福村出版)</p>
	<p>学びの手立て</p>
	<p>評価</p> <p>毎回の発表の内容と、取り組みの積極性、討議での積極性によって総合的に評価する。</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目 基本 情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	臨床心理学特殊研究 I B	通年	金 6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山入端 津由	1 年		

学 び の 準 備	ねらい	メッセージ
	<p>「実証に基づく臨床心理学」の考え方の基に、臨床実践における科学的思考の訓練が重視されている。臨床心理士となるためには、こうした科学者—実践家モデルを身につけることが強く要請される。このための教育のひとつとして、科学性のある心理学研究論文としての修士論文の作成課題が準備されている。これは2年間で完成することになっている。1年目は、文献調査を通して、臨床心理学の理</p>	
	到達目標	

学 び の 実 践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 臨床社会心理学関連やポジティブ心理学関連の分野を可能な限り学ぶ (2) 各自、関心のある臨床心理学の理論や関連分野について発表し、集団討議を通して、理解を深める。 (3) 各自の関心のあるテーマを絞込み、関連する先行研究文献を熟読し、論点を整理する。 (4) 研究計画を立てる。
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>適宜、紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p>
	<p>評価</p> <p>発表内容、取り組みの姿勢と課題処理の進捗状況、討議行動など、総合的に評価する。</p>

学 び の 継 続	次のステージ・関連科目
-----------------------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	臨床心理学特殊研究ⅡC	通年	金 7	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	井村 弘子	2年	5号館424-2研究室 (098-893-3710) h.imura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 初年次で十分検討した各自の研究計画に基づき、調査・面接等によりデータを収集し、そのデータを心理学的手法を用いて分析する。そして、その結果を臨床心理学的論点から考察し、修士論文としてまとめることを目的とする。	メッセージ 修士論文作成に向け、前年度までの構想に基づき、早めに着手してデータを収集し、しっかりとまとめあげてほしい。
	到達目標 臨床心理学的研究技法の修得 修士論文の作成・執筆・最終発表	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	修士論文デザイン検討(1) テーマの論点と背景理論	
	3	修士論文デザイン検討(2) 研究方法	
	4	修士論文デザイン検討(3) 倫理的配慮と研究責任	
	5	修士論文デザイン検討(4) 臨床心理学的意義	
	6	集団討議(1) 修士論文デザインに関する批判的検討	
	7	集団討議(2) 修士論文デザインに関する建設的提言	
	8	集団討議(3) 修士論文デザインに関する個別報告	
	9	データ収集報告(1) データ収集の概要	
	10	データ収集報告(2) データ収集の確認	
	11	データ収集報告(3) データ収集の見直し	
	12	データ収集報告(4) データ収集の再確認	
	13	データ収集報告(5) 個別報告	
	14	集団討議(4) データ収集に関する批判的検討	
	15	集団討議(5) データ収集に関する建設的提言	
	16	集団討議(6) データ収集に関する個別報告	
	17	データ分析報告(1) データ分析の概要	
	18	データ分析報告(2) データ分析の確認	
	19	データ分析報告(3) データ分析の見直し	
	20	データ分析報告(4) データ分析の再確認	
	21	データ分析報告(5) 個別報告	
	22	集団討議(7) データ分析に関する批判的検討	
	23	集団討議(8) データ分析に関する建設的提言	
	24	論文執筆指導(1) 執筆方法の概要	
	25	論文執筆指導(2) 執筆計画の確認と見直し	
	26	論文執筆指導(3) 進捗状況に応じた指導	
	27	論文執筆指導(4) 個別報告	
	28	修士論文発表予演(1) 発表の概要	
29	修士論文発表予演(2) 発表の具体的準備		
30	修士論文発表予演(3) 最終発表に向けての予行演習		
31	まとめ		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 特に定めないが、各自の研究テーマにふさわしいものを随時紹介する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 常に問題意識を持ち、自ら学ぶ姿勢を確立すること。 教員・他の院生とのディスカッションに積極的に参加すること。</p>
	<p>評価 発表内容、研究進行状況、討議参加への姿勢や発言などを総合的に評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 前年度までに「臨床心理学特殊研究ⅠC」を受講していることが前提である。 また、関連科目である「心理学研究法特論」「心理統計法特論」を履修しておくことが望ましい。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	臨床心理学特殊研究ⅡA	通年	金7	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上田 幸彦	2年	上田幸彦まで	

学びの準備	ねらい 修士論文を完成させることを通して、データ収集法、データ収集における倫理的配慮、データ整理、統計的手法、論文執筆における科学論文の構成、引用の仕方等をマスターする。修士論文完成後の発表会の前には、リハーサルを行い、プレゼンテーションの仕方、学会発表の仕方を身につけることをねらいとする。	メッセージ
	到達目標 修士論文を完成し、修士論文最終発表にては発表する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	修士論文進捗状況（先行研究） 発表	
	2	”	
	3	”	
	4	”	
	5	修士論文進捗状況（方法・対象者） 発表	
	6	”	
	7	”	
	8	”	
	9	修士論文進捗状況（データ収集） 発表	
	10	”	
	11	”	
	12	”	
	13	修士論文進捗状況（データ分析） 発表	
	14	”	
	15	”	
	16	”	
	17	”	
	18	修士論文進捗状況（考察） 発表	
	19	”	
	20	”	
	21	”	
	22	”	
	23	”	
	24	”	
	25	”	
	26	修士論文完成版 発表	
	27	”	
	28	”	
29	修士論文発表会 予演		
30	”		
31	”		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など APA論文作成マニュアル アメリカ心理学会著 江藤裕之他訳 医学書院</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p>
評価	<p>提出された論文の内容から評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	臨床心理学特殊研究ⅡB	通年	金 7	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	井村 弘子	2年	5号館424-2研究室 (098-893-3710) h.imura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 初年次で十分検討した各自の研究計画に基づき、調査・面接等によりデータを収集し、そのデータを心理学的手法を用いて分析する。そして、その結果を臨床心理学的論点から考察し、修士論文としてまとめることを目的とする。	メッセージ 修士論文作成に向け、前年度までの構想に基づき、早めに着手してデータを収集し、しっかりとまとめあげてほしい。
	到達目標 臨床心理学的研究技法の習得 修士論文の作成・執筆・最終発表	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	修士論文デザイン検討 (1) テーマの論点と背景理論	
	3	修士論文デザイン検討 (2) 研究方法	
	4	修士論文デザイン検討 (3) 倫理的配慮と研究責任	
	5	修士論文デザイン検討 (4) 臨床心理学的意義	
	6	集団討議 (1) 修士論文デザインに関する批判的検討	
	7	集団討議 (2) 修士論文デザインに関する建設的提言	
	8	集団討議 (3) 修士論文デザインに関する個別報告	
	9	データ収集報告 (1) データ収集の概要	
	10	データ収集報告 (2) データ収集の確認	
	11	データ収集報告 (3) データ収集の見直し	
	12	データ収集報告 (4) データ収集の再確認	
	13	データ収集報告 (5) 個別報告	
	14	集団討議 (4) データ収集に関する批判的検討	
	15	集団討議 (5) データ収集に関する建設的提言	
	16	集団討議 (6) データ収集に関する個別報告	
	17	データ分析報告 (1) データ分析の概要	
	18	データ分析報告 (2) データ分析の確認	
	19	データ分析報告 (3) データ分析の見直し	
	20	データ分析報告 (4) データ分析の再確認	
	21	データ分析報告 (5) 個別報告	
	22	集団討議 (7) データ分析に関する批判的検討	
	23	集団討議 (8) データ分析に関する建設的提言	
	24	論文執筆指導 (1) 執筆方法の概要	
	25	論文執筆指導 (2) 執筆計画の確認と見直し	
	26	論文執筆指導 (3) 進捗状況に応じた指導	
	27	論文執筆指導 (4) 個別報告	
	28	修士論文発表予演 (1) 発表の概要	
	29	修士論文発表予演 (2) 発表の具体的準備	
30	修士論文発表予演 (3) 最終発表に向けての予行演習		
31	まとめ		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 特に定めないが、各自の研究テーマにふさわしいものを随時紹介する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 常に問題意識を持ち、自ら学ぶ姿勢を確率すること。 教員・他の院生とのディスカッションに積極的に参加すること。</p>
	<p>評価 発表内容、研究進行状況、討議参加への姿勢や発言などを総合的に評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 前年度までに「臨床心理学特殊研究ⅠB」を受講していることが前提である。 また、関連科目である「心理学研究法特論」「心理統計方特論」を履修しておくことが望ましい。</p>

科目 基本 情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	臨床心理学特殊研究ⅡB	通年	金 7	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山入端 津由	2年		
学 び の 準 備	ねらい	メッセージ		
	臨床心理学特殊研究ⅠBで準備したことに基づき、理論・仮設の点検、調査実施方法の準備、そして、調査実施を行い、調査結果の整理等を経て修士論文の作成に取り組む。論文執筆過程において、科学論文の作成方法を体験的に学ぶ。また、修士論文完成後の発表会を通して、プレゼンテーションの仕方についても学ぶ。こうした一連の作業過程を通して、科学者—実践家モデルの基礎を築く。			
到達目標				
学 び の 実 践	学びのヒント			
	授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）			
	<p>(1) 研究実施計画の再点検を行う。先行研究の整理、仮設、検証方法等について、現実課題に沿っているかどうかのチェックを行う。その結果について中間発表を行う。</p> <p>(2) 調査方法を確立し、作成・準備を行う。つまり、予備調査、本調査形式をとるか、あるいは一時調査、二次調査という形式で行うかなど。その時点で調査資料の整理方法、統計資料としての処理法などもはっきりさせておく。</p> <p>(3) 調査を実施し、資料の処理を行う。</p> <p>(4) 修士論文の作成に着手する。仮説検証、先行研究の流れにおいて、調査結果の有する意味を明確にしながら、討議をきちんと書きあげ、修士論文を完成させる。</p> <p>(5) 完成後、スライドやパワーポイント等を用いた発表の準備、リハーサル等を行う。</p> <p>(6) 学会形式のような発表を行う。</p>			
	テキスト・参考文献・資料など 適宜、紹介する。			
学びの手立て				
評価	提出された修士論文について、主査と副査を中心に査読と口頭試問を行い、その結果を成績に反映させる。			
学 び の 継 続	次のステージ・関連科目			

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	臨床心理学特論Ⅰ	前期	月7	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	井村 弘子	1年	5号館424-2研究室 (098-893-3710) h.imura@okiu.ac.jp	
学びの準備	ねらい	メッセージ		
	臨床心理士を目指す学生の土台となる講義であり、臨床心理学の定義や歴史、日本・諸外国における臨床心理士資格制度、臨床心理学に基づく人間理解・援助の方法、さらに、今後の展望や倫理問題などについて学ぶ。	人間福祉専攻臨床心理学領域で学ぶための最も基礎となる科目であることを踏まえ、柔軟な発想を持ちつつ、堅実に学んでほしい。		
学びの準備	到達目標			
	臨床心理学の定義・歴史・資格制度・倫理に関する専門的知識を得る。 臨床心理学に基づく人間理解・支援の方法に関する基礎的知識を修得する。			
学びの実践	学びのヒント			
	授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）			
	第1回～第2回 : 臨床心理学の定義と独自性 第3回～第4回 : 臨床心理学の歴史と成立 第5回～第6回 : 臨床心理士の養成と課題 第7回～第8回 : 臨床心理学における人間理解の方法 第9回～第10回 : 臨床心理学に基づく援助の方法 第11回～第12回 : 臨床心理学に基づく実践活動・研究活動・専門活動 第13回～第14回 : 臨床心理士の職業倫理 第15回～第16回 : 臨床心理学の課題と展望			
	テキスト・参考文献・資料など			
学びの実践	下山晴彦（著）「これからの臨床心理学」東京大学出版会 大塚義孝（編）臨床心理学全書1「臨床心理学原論」誠信書房 下山晴彦・丹野義彦（編）講座臨床心理学1「臨床心理学とは何か」東京大学出版会			
	学びの手立て			
	常に問題意識を持ち、自ら学ぶ姿勢を確立すること。 教員・他の院生とのディスカッションに積極的に参加すること。			
学びの実践	評価			
	出席状況、討論への参加態度や発言内容、提出されたレポート等から総合的に評価する。評価方法については、講義初日に詳細に説明する。			
学びの継続	次のステージ・関連科目			
	専門的知識・技能を高めてゆくために、引き続き「臨床心理学特論Ⅱ」を履修すること。			

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	臨床心理学特論Ⅱ	後期	木6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-牛田 洋一	1年	yushida@okiu.ac.jpあるいは講義後に教室にて	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>・心理臨床の実践家あるいは研究者を志す大学院生に、比較的新しいパラダイムに基づく臨床心理学的支援の展開と、その基礎理論（認識論も含む）を紹介・検討していきます。また、今後ますます重要となってくる高齢者における心理臨床的課題についても検討します。</p>	<p>自由で活発な議論の場を提供していきたいと思います。</p>
到達目標	<p>講義の中では限定されたテーマで議論を重ねていきますが、テーマに対する理解だけではなく、各自がテーマに関する発表の準備と議論を重ねていく過程のなかで、今後の心理臨床実践、研究の手掛かりを得ていくことができることを目指します。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	各自の課題を明確にしてくる
	2	臨床心理学の基礎理論として：Bateson, G. の二重拘束理論について	文献検討と発表準備
	3	臨床心理学の基礎理論として：Bateson, G. の二重拘束理論について	同上
	4	臨床心理学の基礎理論として：コミュニケーションの語用論	同上
	5	臨床心理学の基礎理論として：コミュニケーションの語用論	同上
	6	臨床心理学の技法論：MRIのアプローチ	同上
	7	臨床心理学の技法論：BFTCのアプローチ	同上
	8	基礎理論・技法論の総括	同上
	9	高齢者臨床心理：総論	同上
	10	高齢者臨床心理：認知症疾病論	同上
	11	高齢者臨床心理：認知症疾病論	同上
	12	高齢者臨床心理：認知機能評価	同上
	13	高齢者臨床心理：認知症支援	同上
14	高齢者臨床心理：総括	同上	
15	その他、今後注目すべき臨床心理学のトピックの紹介	文献精査	
16	口頭試問による評価	発表・議論を合わせて評価	
テキスト・参考文献・資料など	<p>それぞれのテーマに沿って適宜紹介します。入手困難の文献については印刷配布します。また、各自が発表テーマに沿った文献を検索し、講義の中で紹介してください。</p>		
学びの手立て	<p>各自がテーマに沿った知見を検索、検討しレジュメを作成し発表して頂きます。各自の発表に対して、受講者同士の積極的な議論を望みます。大学院では自ら積極的にテーマを追求していく姿勢が求められます。</p>		
評価	<p>各自の発表・議論への参加（70%） 最終の口頭試問（30%）</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>講義の中で扱うテーマだけではなく、それぞれが自身の心理臨床活動を実践していく上で、準拠していく理論的枠組みと出会えることが大切です。さまざまな理論と出会い、自分にフィットするものを見つけてください。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	臨床心理基礎実習	通年	火6・7	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山 篤史・山入端 津由	1年	研究室 13-211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>学内外での臨床心理実習を行う為に必要となる、心理臨床の倫理や、臨床心理面接、臨床心理査定などの基礎的知識と基礎的技術の習得を目的とする。ロールプレイング、ディスカッションを通して体験的に学習する。</p>	<p>ディスカッションやロールプレイングを通して、心理臨床実践の基礎を身につけます。臨床実践の力は、話を聞くだけでは身につけません。主体的に、積極的にディスカッションや実習、課題に取り組んで下さい。臨床の実践家としてクリアすべき課題がこの講義を通して見つかるかもしれません。まずはそれに向き合い、受け入れることからスタートです。</p>
到達目標	<p>①心理臨床実践における倫理的態度を身につける。 ②マイクロカウンセリングの基本的かかわり技法を用いて面接ができる。 ③インテーク報告書が書ける。 ④客観的事実と内的な体験を区別した実習報告書が書ける。 ⑤スーパーバイザーや教員を使って自分自身や自分の面接を振り返ることができる。 ⑥これまで学んできた知識や経験をもとにしてディスカッションで自分の意見を述べることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画	テーマ	時間外学習の内容
	回		
	1	前期オリエンテーション	調べ学習・レジメ作成・発表準備
	2	心理臨床実践の基本事項①	調べ学習・レジメ作成・発表準備
	3	心理臨床実践の基本事項②	調べ学習・レジメ作成・発表準備
	4	心理臨床実践の基本事項③	調べ学習・レジメ作成・発表準備
	5	心理臨床の面接の基本的態度	リフレクションシート作成
	6	心理臨床面接の応答技法①	リフレクションシート作成
	7	心理臨床面接の応答技法②	リフレクションシート作成
	8	心理臨床面接の応答技法③	リフレクションシート作成
	9	応答技法のロールプレイ	リフレクションシート作成
	10	インテーク面接について①	リフレクションシート作成
	11	インテーク面接について②	リフレクションシート作成
	12	インテーク面接ロールプレイ①	リフレクションシート作成
	13	インテーク面接ロールプレイ②	リフレクションシート作成
	14	学外基礎実習についてのオリエンテーション	配布資料の理解・実習目標設定
	15	インテークの記録と報告①	調べ学習・レジメ作成・発表準備
	16	インテークの記録と報告②	調べ学習・レジメ作成・発表準備
	17	後期オリエンテーション	実習報告準備
	18	学外基礎実習の報告①	リフレクションシート作成
	19	学外基礎実習の報告②	リフレクションシート作成
	20	心理臨床面接のロールプレイ①	リフレクションシート作成
	21	心理臨床面接のロールプレイ②	リフレクションシート作成
	22	プレイセラピーと箱庭療法について	リフレクションシート作成
	23	プレイセラピーのロールプレイ①	リフレクションシート作成
	24	プレイセラピーのロールプレイ②	リフレクションシート作成
	25	面接の進め方について	リフレクションシート作成
	26	面接の技法①	リフレクションシート作成
	27	面接の技法②	リフレクションシート作成
	28	面接の技法③	リフレクションシート作成
	29	面接の技法④	リフレクションシート作成
30	面接の技法⑤	リフレクションシート作成	
31	まとめ	まとめのレポート	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 適宜紹介する 適宜紹介する</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 心理臨床実践の学びのためには、自分の認知・行動・感情を振り返り、言語化して表現するトレーニングが必要とされる。その際、乗り越えなければならない自分自身の課題も見つかると思うが、それに向き合い続けなければならない。心理的負担を伴う作業ではあるが、スーパーバイザーや教員を使い、支えを得ながら、取り組んでほしい。 学部講義のようにいくらまじめに取り組んでいても、受け身的な態度では実践力は身につかない。積極的に発言し、行動し、多くの経験を積んでほしい。</p>
	<p>評価 ①ディスカッション・ロールプレイング実習への取り組み方 ②リフレクションシート・課題の提出状況 ③学外の実習評価 を総合的に判断し評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 「臨床心理実習」や附属心理相談室のケース陪席、ケース担当、学外のボランティア活動などで学んだことを実践し、常に振り返りを行う。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	臨床心理査定演習 I	前期	火 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上田 幸彦	1年	上田幸彦まで	

学びの準備	ねらい 最近日本においても、臨床心理士に求められることが多い神経心理学的検査法について学ぶ。特に神経心理学的検査が必要とされる高次脳機能障害に対する基本的な神経心理学検査バッテリーの実施法を身につける。	メッセージ
	到達目標 神経心理学的検査結果から援助に役に立つ所見を書けるようになることを目指す。神経心理学的所見に基づく援助方法を考えることができるようにする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	神経心理学査定概論	
	2	認知機能概論①	
	3	認知機能概論②	
	4	認知機能概論③	
	5	認知機能概論④	
	6	WAIS-III①	
	7	WAIS-III②	
	8	WAIS-III③ プロフィール分析、結果の解釈と所見の書き方	
9	WMS-R①		
10	WMS-R②		
11	リーバード行動記憶検査		
12	注意機能検査①：TMT		
13	注意機能検査②：PASAT		
14	遂行機能検査 ウィスコンシンカードソーティングテスト		
15	神経心理学的報告書の書き方		
16			
	テキスト・参考文献・資料など 神経心理学的検査集成 レザック, M. D. 鹿島晴雄監修 創造出版		
	学びの手立て		
	評価 授業への出席状況とレポートによって評価する		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	臨床心理査定演習Ⅱ	後期	月7	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-稲田 梨沙	1年	稲田梨沙 <r.inada@okiu.ac.jp>	

学びの準備	ねらい 心理査定の専門技法である心理検査について、代表的な心理検査を取り上げる。検査の適切な実施方法、結果の整理、解釈の基本的な考え方について体験的に学習した上で、検査報告書の書き方、テストバッテリーの組み方、心理的援助に結びつく総合所見の書き方などを身につけることを目的とする。	メッセージ 演習の一環として事前に必ず被験者体験をし、データを手元に用意すること。各検査について、検査の成り立ち、目的、構成、手順、測定方法などについて各自整理しておくこと。
	到達目標 "この科目を履修することによって、心理検査を実施・所見作成し、同時に見立てと手立てを考える専門的な力を身につけることができる。" "	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	臨床心理査定概論	臨床における心理査定を調べ学習
	2	心理面接による臨床心理査定の実際	心理査定の方法について調べ学習
	3	心理面接による臨床心理査定の実際	心理検査の種類について調べ学習
	4	心理検査①-1 (質問紙法 実施法と理論的背景)	課題ワークシート (採点・分析)
	5	心理検査①-2 (質問紙法 所見のまとめ方)	課題ワークシート (所見のまとめ)
	6	心理検査①-3 (質問紙法 見立てと手立て)	課題ワークシート (解釈)
	7	心理検査②-1 (作業検査法 実施法と理論的背景)	課題ワークシート (採点・分析)
	8	心理検査②-2 (作業検査法 所見のまとめ方)	課題ワークシート (所見のまとめ)
	9	心理検査②-3 (作業検査法 見立てと手立て)	課題ワークシート (解釈)
	10	心理検査③-1 (投映法その1 実施法と理論的背景)	課題ワークシート (採点・分析)
	11	心理検査③-2 (投映法その1 所見のまとめ方)	課題ワークシート (所見のまとめ)
	12	心理検査③-3 (投映法その1 見立てと手立て)	課題ワークシート (解釈)
	13	心理検査④-1 (投映法その2 実施法と理論的背景)	課題ワークシート (採点・分析)
	14	心理検査④-2 (投映法その2 所見のまとめ方)	課題ワークシート (所見のまとめ)
15	心理検査④-3 (投映法その2 見立てとまとめ方)	課題ワークシート (解釈)	
16	最終レポート作成・提出 (到達度の確認)	最終レポート作成・提出	
実践	テキスト・参考文献・資料など "テキスト：必要に応じて資料を配布する。 参考文献： 竹内健児(編)「心理検査の伝え方・活かし方」金剛出版 日本臨床心理士会「臨床心理士の基礎研修」創元社 上里一郎(監修)「心理アセスメントハンドブック」西村書店"		
	学びの手立て "①履修の心構え 欠席するとその後の理解に支障をきたすため、皆出席かつ遅刻厳禁。高度に専門的な科目なので、「臨床心理査定演習Ⅰ」「投映法特論」を受講済みであることが望ましい。 ②学びを深めるために 臨床現場でのボランティア活動等を行うことを奨励する。"		
	評価 "評価方法 発表、討論への参加、提出されたレポート等から総合的に評価する。 割合 平常点(出席状況等) 30% 課題レポート50% 最終レポート20% 上記の評価方法については、講義初日に詳細に説明する。"		

学びの継続	次のステージ・関連科目 "関連科目「臨床心理査定演習Ⅰ」「投映法特論」を受講済みであることが望ましい。 次のステージ 「臨床心理基礎実習」「臨床心理実習」「臨床心理事例検討実習」などを受講する中で、事例を通してさらに理解できることが望ましい。"
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	臨床心理実習	通年	火6・7	0
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上田 幸彦・井村 弘子	2年	上田幸彦まで	

学びの準備	ねらい 本実習では、臨床心理学基礎実習の学習成果をふまえ、学内外での心理臨床活動の実際に触れながら、地域に根ざした心理臨床活動を展開するために必要な実践的知識や技法の習得をめざす。	メッセージ 毎週の学外実習と実習報告には、かなり時間とエネルギーを必要とする。体調管理も行いながら一年間取り組むこと。
	到達目標 臨床心理学的な人間理解と援助方法を身につける。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	臨床心理基礎実習で修得した面接技法などについて確認し、学外での実習に向けた演習を行う。	
	2	〃	
	3	〃	
	4	〃	
	5	学外実習での実習成果をふまえ、実際の臨床場面での問題や課題について事例をもとに検討する。	
	6	〃	
	7	〃	
	8	〃	
	9	〃	
	10	〃	
	11	〃	
	12	〃	
	13	〃	
	14	〃	
	15	〃	
	16	前期の実習を振り返り、後期の実習課題を検討する。	
	17	〃	
	18	実習施設担当者による「心理臨床の現場と臨床心理士の役割と活動」に関する講義	
	19	〃	
	20	個別の事例について検討を行い問題点を探ると同時に、より適切な対応について検討する。	
	21	〃	
	22	〃	
	23	〃	
	24	〃	
	25	〃	
	26	〃	
	27	〃	
	28	〃	
	29	〃	
30	〃		
31	〃		

学	テキスト・参考文献・資料など
び の 実 践	学びの手立て
	評価
学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 授業において、随時紹介する。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	臨床心理事例検討実習 A	通年	水 7	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上田 幸彦・平山 篤史・井村 弘子・山入端 津由	1年	上田幸彦まで	

学びの準備	ねらい 一つ一つの事例を様々な視点から検討することを通して、心理的問題を抱える人の環境、歴史、特性に応じた援助が展開できるようにする。	メッセージ 生の事例に触れることで、臨床心理学的支援の実際に触れてほしい。その際に守秘義務の重要性についても学ぶこと。
	到達目標 来談者の個別性を理解し、その人への適切な援助を柔軟に展開できるようにする。	

到達目標	来談者の個別性を理解し、その人への適切な援助を柔軟に展開できるようにする。
------	---------------------------------------

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	事例検討①	
	3	事例検討②	
	4	事例検討③	
	5	事例検討④	
	6	事例検討⑤	
	7	事例検討⑥	
	8	事例検討⑦	
	9	事例検討⑧	
	10	事例検討⑨	
	11	事例検討⑩	
	12	事例検討⑪	
	13	事例検討⑫	
	14	事例検討⑬	
	15	事例検討⑭	
	16	事例検討⑮	
	17	事例検討⑯	
	18	事例検討⑰	
	19	事例検討⑱	
	20	事例検討⑲	
	21	事例検討⑳	
	22	事例検討㉑	
	23	事例検討㉒	
	24	事例検討㉓	
	25	事例検討㉔	
	26	事例検討㉕	
	27	事例検討㉖	
	28	事例検討㉗	
29	事例検討㉘		
30	事例検討㉙		
31			

学	テキスト・参考文献・資料など 適宜紹介する。
び の 実 践	学びの手立て
学 び の 実 践	<p>評価</p> <p>心理相談室で担当した事例を発表することが単位認定の条件となる（2年で3ケース以上を担当することがのぞましい。） 授業態度、事例報告および報告に対するコメントなどの総合的に判断し評価する。</p>
学 び の 継 続	次のステージ・関連科目

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	臨床心理面接特論 I	後期	金 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山入端 津由	1年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
-------	----------------

学びの実践	学びの手立て
-------	--------

学びの実践	評価
-------	----

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	臨床心理面接特論Ⅱ	後期	木6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上田 幸彦	1年	上田幸彦まで	

学びの準備	ねらい 近年世界的に最も用いられることが多い認知行動療法に関わる面接技法を中心に学習する。また精神分析的アプローチ、クライアント中心療法などの各派との違いと各派に共通するものを探り、最近の流れである心理療法の統合について理解していく。	メッセージ 毎回、積極的に質問・コメントをすること。
	到達目標 将来出会うであろう様々なクライアントに対して、最も有効なアプローチ法を見出せるようにする。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	認知行動療法の基礎としての学習・問題行動・不適応行動	
	3	行動療法の主な技法：系統的脱感作、曝露反応妨害法、応用行動分析	
	4	認知行動療法基礎理論、抑鬱に対する認知行動療法①	
	5	抑鬱に対する認知行動療法②	
	6	” ③	
	7	” ④	
8	” ⑤		
9	他のアプローチとの比較：来談者中心療法		
10	” : 精神力動的アプローチ		
11	” : システムズ・アプローチ		
12	” : 折衷的アプローチ		
13	” : 動機づけ面接法		
14	慢性疾患、視覚障害者、高次脳機能障害者に対するアプローチ		
15	心理療法の統合：多理論統合モデル		
16			
	テキスト・参考文献・資料など		
	参考文献： 「心理療法の諸システム 多理論統合的分析」 プロチャスカ著 津田彰他監訳 金子書房 2010 「リハビリテーションにおける認知行動療法的アプローチ」 上田幸彦著 風間書房 2011 「高次脳機能障害のための認知リハビリテーション」 ソールバーク・マティアー著 尾関誠・上田幸彦監訳 協同医書出版社 2012		
	学びの手立て		
	評価 毎回の講義でのディスカッションへの参加状況とレポートによって評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	老年健康科学特論	通年	水5	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ドナルド・クレイグ・ウィルコックス	1年		

学びの準備	ねらい 本授業は、健康・疾病および加齢に関する項目について学ぶことを目的とする。健康管理システムにおけるソーシャルワークの役割、健康と加齢に関する社会的要因、高齢者がもたらす社会経済的影響に対する政策について学ぶ。主に、健康増進とリスク除去の方策のほか、健康維持アプローチと高齢者特有の健康問題にも焦点を当てる。授業で扱うテーマとして以下5点を設定する。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	前期オリエンテーション	
	2	健康長寿(Healthy Aging)の定義	
	3	健康長寿とソーシャルワーク	
	4	地域における保健活動と健康長寿	
	5	高齢者の健康に関わる社会的要因	
	6	高齢者の疾病について	
	7	加齢に伴う身体的健康問題	
	8	加齢に伴う精神的健康問題	
	9	長期介護について	
	10	介護者のストレスと健康	
	11	終末期ケアについて	
	12	スピリチュアリティと健康	
	13	ソーシャルワーク実践	
	14	健康増進と予防について	
	15	前期のまとめ	
	16	後期オリエンテーション	
	17	文化および民族と健康	
	18	世界の社会的弱者の健康について	
	19	高齢者の健康政策のマクロ的影響	
	20	沖縄における長寿の課題1	
	21	沖縄における長寿の課題2	
	22	沖縄における長寿の課題3	
	23	沖縄における長寿の課題4	
	24	沖縄における長寿の課題5	
	25	世界の健康長寿の課題1	
	26	世界の健康長寿の課題2	
	27	世界の健康長寿の課題3	
	28	世界の健康長寿の課題4	
	29	世界の健康長寿の課題5	
30	後期のまとめ		
31			

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>必要に応じて資料を配布する。 近藤克典『健康格差社会～何が心と健康を蝕むのか～』医学書院, 2005. Berkman B. 『Handbook of Social Work in Health and Aging』Oxford Univ Press, 2006. その他、適宜、論文等を紹介する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p>
学 び の 実 践	<p>評価</p> <p>出席・クラス討論・授業内での発表内容・授業終了時のレポートの内容。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p>